



「自律的学習法」を拠り所として取り組んだ 「総合的な学習の時間の指導法」

教育学部 小幡 肇



福岡県出身。北九州市公立小学校教諭、奈良女子大学附属小学校教諭を経て、愛知学泉大学・文教大学と勤務。研究テーマは、「木下竹次の『自律的学習法』による学習指導法の研究」。奈良女子大学附属小学校では、まず独自学習に取り組む。次に、成果や「気になること」を提示して討議を願い出る。そして、討議結果を持ち帰り、再度、独自学習に取り組む。そこで、本学の授業「生活科」「総合的な学習の時間」に関する科目においても、木下竹次の「自律的学習法」を拠り所にした授業づくりに取り組んでいる。

(おばた はじめ)

授業名は、「総合的な学習の時間の指導法」。小・中学校「総合的な学習の時間」は、課題を設定し、解決していくことで、自己の生き方を考えていく。高等学校「総合的な探究の時間」は、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を解決していく。児童・生徒は、12年間を通して、探究する良さを理解し、自己の生き方に生かしていくことを学ぶ。以下、授業の様子を紹介する。

1. 1. 一般目標

文部科学省は、「総合的な学習の時間の指導法」の「教職課程コアカリキュラム」において、以下の一般目標を示した。

- ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
- ・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。

2. 全8回の授業計画

木下竹次の「自律的学習法」を拠り所にして、①事前学習 (PowerPoint 作成) を行う、②事前学習 (PowerPoint 作成) を提示して、グループ討議を行う、③振り返り (PowerPoint 作成) を行うことにした。

(1) 第1回

総合的な学習の時間の創設前の教育実践と

して、どのような実践があるのか。

まず、筆者が、奈良女子大学附属小学校「奈良プラン (しごと)」において実践した「第3学年『気になる木』の『はっぱ』をふやそう」の授業録画 (1997年) の視聴を通して、①子供の発話や様子を記録する作業に取り組む。そして、グループで、②各教科等で育まれる見方・考え方を活用している場面、事象を多様な角度から俯瞰して捉える場面等を討議する。授業後、文章化した振り返りを提出する。

また、学習指導要領に書かれている総合的な学習の理念・意義・役割を説明する事前学習を提出する。

(2) 第2回

まず、振り返りの交流を行う。そして、事前学習 (PowerPoint) を提示して、総合的な学習の理念・意義・役割について、グループ討議を行う。グループ討議の進め方は、以下のような「おたずね」をベースにmanaba

のコメントで投稿した後、互いの話を交流する仕組みにした。

- ⑦代表報告者が報告をする。
- ⑧聴き手は、「●●さんは、～と言ったけれど、なぜ～となのですか？（どういうことですか？思ったのですか？）と「おたずね（質問）」する。
- ⑨応答の話を交流する。

次に、奈良女子大学附属小学校「奈良プラン（しごと）」や筆者の実践及び総合的な学習との関連について説明をした。

授業後は奈良女子大学附属小学校「しごと」を事例にして、総合的な学習の理念・意義・役割を説明する振り返りを提出する。また、学習指導要領に書かれている教科を超えて必要となる資質・能力について事前学習を提出する。

(3) 第3～6回

同様の進め方で、以下のように行った。

- 第3回、横浜市立大岡小学校6年「みつばちプロジェクト」の録画視聴を通して教科を超えて必要となる資質・能力
- 第4回、総合的な目標・テーマ設定・各教科や領域等との関連
- 第5回、年間指導計画を収集し、どのようなことを書くのかを検討する

(4) 第6～8回

第6回に向けて、自身の身のまわりで「なんとかならいか、これ」ということや地域の特色を生かした素材を収集させた。

また、各地の特色ある総合的な学習の指導計画や実践を収集させた、そして、自身の身のまわりで「なんとかならいか、これ」ということや地域の特色を生かした素材を使って、探究の過程を学ぶ学習構想を考えさせ、発表会を行った。

- PHASE 1 課題設定・情報収集・整理・分析・まとめ・表現・発表・反省
- PHASE 2 さらに課題設定・情報収集・整理・分析・まとめ・表現・発表・反省

3. 学生の考えた総合的な学習の構想

この学生は、故郷でウミガメに関わる活動

を行った経験を生かして構想を作成した。

【テーマ】私たちとアカウミガメのふるさと、中田島砂丘で環境問題について考えよう

【目標】メダカを選び飼育したり、中田島砂丘でアカウミガメを放流したりすることで、生態系バランスや人間の経済活動による自然界の影響について考えたり、命の尊さを実感したりする。また、環境問題やSDGsについて課題意識をもち、自分たちに出来ること、これからの社会はどうあるべきか考える。

◎第1ステージ〈メダカを飼育する準備〉

◎第2ステージ〈自然環境破壊を考える〉

○課題設定 ○情報収集（略）

アカウミガメ放流会に参加、浜名湖体験施設「うおっと」で体験。

○整理・分析

クラス会議で議論し、自然破壊の原因、地球への影響、未来の地球予想を分析する。

○まとめ・表現

これからはどんな社会になるべきか、自分に出来ることは何か、どんな制度があれば良いかななどを深める。

○発表・反省

伝えることで環境問題は解決に向かっていく→地域の人、保護者、他学年のともだち、先生など、たくさんの人に伝えよう、準備

◎第3ステージ〈一緒に社会をよくしていく仲間を増やす〉

○課題設定

学んだことを伝える。「自分たちに出来ること」を一緒にしてくれる仲間を増やす。

○情報収集

○整理・分析

○まとめ・表現

○発表・反省

他学年、学校の職員、地域の方々や保護者に、環境問題についての現状や将来予想、対策などを紹介、提案、発表会の反省、改善